

可茂農林事務所の普及活動状況 令和8年3月24日現在

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■高収量・高品質な小麦生産を目指し、実証試験に取組み中 小麦

管内の令和8年産小麦は、10 経営体が品種「さとのそら」を合計 45ha 作付けしており、高温・少雨傾向の中、概ね順調に生育している。

美濃加茂市内において、高収量・高品質生産に向けた穂肥増肥実証を行うため、生育調査により穂肥の施用時期を検討し、3月16日に穂肥を実施し、施用量を増やした区を設置した。

農林事務所では、今後も実証ほ場における生育、収量・品質等を調査し、穂肥増量の効果を確認するとともに、生産者に対する助言・指導を通じて、実需者の要望に応え得る高収量で高品質な小麦生産に向けて支援する。



【実証ほ場での穂肥の施用】

(地域支援第一係)

■営農連絡会議にて、今年度実績と来年度計画を検討 関係機関との普及活動打合せ

2月25日、白川及び可児地域で、地域ごとに営農連絡会議を開催した。

市町村、JAめぐみの、岐阜県農業共済組合中濃支所、農林事務所（農業振興課、農業普及課）が出席し、地域農業に関する情報共有を行った。

各機関から、事業の推進状況や地域計画の取り組み、主要品目の生産実績などが報告された。農業普及課からは、水稻を始めとした土地利用型品目、園芸品目の実証ほ結果の提供等を行い、厳しい夏季高温に対応した技術や環境にやさしい技術への取り組みを進めていくこととした。

また、就農支援協議会支部活動では、就農相談実績とその後の対応方針を検討するとともに、就農5年以内の新規就農者への伴走支援実績と青年等就農計画と比べた評価を示し、今後も関係機関一体となった重点的な支援を行うことを確認した。

農業者の高齢化と担い手の規模拡大に対応するためのスマート農業の推進については、スマート技術の導入状況について情報共有し、今後もスマート農業を推進していくこととした。

今年度は、県の新たな基本計画の策定を行っており、令和8年度からの5年間の重点的な取り組み案を周知し、引き続き関係機関の協力を依頼した。

農林事務所は、今後も関係機関の協力を得ながら、地域農業の活性化に向けた取り組みを進めていく。

(地域支援第二係)



【白川地域営農連絡会議】

■なし産地の新たな取組みをPR 美濃加茂市山之上果樹産地

3月6日、岐阜県園芸特産振興会果樹部会なし専門部の中央研修会が美濃加茂市山之上で開かれ、農林事務所から山之上なし産地の新たな取組みを紹介した。

担い手育成では、就農研修拠点「山之上フルーツ塾」での新規就農者育成の状況を説明し、あすなろ農業塾長や修了生からも取組みが紹介された。新技術では、省力樹形として注目されるV字ジョイント栽培を視察し、栽培方法や導入のねらいについて説明を行った。

また、農林事務所が実施した天敵を利用したハダニ類防除の実証成果も報告した。

参加した県内なし産地の生産者や関係機関からは多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。

山之上地区では若い後継者が育ちつつあり、農林事務所は関係機関と連携し、早期の経営安定に向けた支援を継続していく。



【ジョイント栽培視察の様子】

(園芸産地支援係)